

学級経営と特別活動

金 井 正¹・大 高 栄 男²

I 問題の所在

学級担任として経験のある教員ならば学級経営と特別活動の関係性は大変深いことが体験として理解できるであろう。教員として学校に勤務すれば、担任として校務分掌が任される。特に、小学校の教員は、新規採用時から学級担任として配置される現状があり、学級としての児童の集団づくりに直面する。経験値の少ない教員が、児童一人ひとりを集団としてまとめていく力は、実践的な指導力として大切なものである。それらの経験値の少ない教員でも、効果的な学級経営の方法の大きな柱の一つに特別活動があり、ここで言及していきたい。

全ての教員が児童生徒にとって素晴らしい担任となることができるだろうか。いずれにしても、全ての担任は児童生徒にとってあるべき担任の姿を示し、より良い学級経営を推進していく必要がある。

学級経営とはいかにすべきであろうか。経営と言うからには、目標があり、その達成のためにPDCAのサイクルを回していくことになる。どのようなPlanを立てれば良いのか。そのPlanの柱は何なのか。担任教員とその教員を養成する立場にある教員のために、担任教員として実際に実践してきた事柄、文部科学省としての考えを逸脱しない範囲で記述する。

¹白鷗大学教育学部 ²栃木県総合教育センター
e-mail : kanai429@fc.hakuoh.ac.jp

Ⅱ 文部科学省の考え方

1 学習指導要領総則から

初めに文部科学省は、学級経営についてどのように考えているのか、ここでは、これまでの学習指導要領の第1章総則を見ていくこととする。

小学校では平成10年告示の「第5 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」の2の中に「(3) 日ごろから学級経営の充実を図り、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てるとともに児童理解を深め、生徒指導の充実を図ること。」とある。このことについては、平成20年告示の「第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」にも同様の記載がある。更に、平成29年告示の「第4 児童の発達の支援」の1の中に「(1) 学習や生活の基盤として、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。また、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の児童の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方により、児童の発達を支援すること。あわせて、小学校の低学年、中学年、高学年の学年の時期の特長を生かした指導の工夫を行うこと。」とある。現行の学習指導要領では、「学習や生活の基盤」、「教師と児童との信頼関係」、「児童相互のよりよい人間関係」から学級経営の観点を表現している。また、この一文を捉えると、「主に集団の場で必要な指導や援助を行うガイダンス」、「個々の児童の多様な実態」、「一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリング」、「児童の発達を支援」、「学年の時期の特長を生かした指導の工夫」等、平成10年、20年学習指導要領には無かった具体的で詳細な記載、関連の追記がなされている。

中学校では、平成29年の学習指導要領「第4 生徒の発達の支援」の1の中に「(1) 学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。また、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、

個々の生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方により、生徒の発達を支援すること。」とあり、小学校と同様に学級経営の充実を図る必要性を示している。また、大切なこととして小学校も中学校も（児童と生徒の違いはあるが）同文で書かれていることも注意する必要がある。発達段階は違うけれども、学級経営の充実の必要性の観点は共通している。

高等学校の学習指導要領（平成30年告示）には、学級経営の用語はなく、ホームルーム経営としている。「第1章総則第5款生徒の発達の支援 1 生徒の発達を支える指導の充実（1）学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃からホームルーム経営の充実を図ること。また、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方により、生徒の発達を支援すること。」して、ホームルーム経営の必要性を述べている。ここで注視したい点は前回の高等学校学習指導要領（平成21年告示）のものには、ホームルーム経営については言及しなかった点が挙げられる。

現行の学習指導要領では小学校、中学校、高等学校と違いはあるが、学級経営やホームルーム経営の必要性を同様の内容で表現しているところが興味深い。その目指すところは同じであると言う点に注目したい。観点の明確な記載についても、これまでの学級経営から一歩も二歩も進めている点に注視したい。もちろん現場を経験した身にとっては、授業の成立のために学級経営は大切な要素であるし、学級という集団がより良い人間関係を育成し、学びに向かう集団づくりや子供たちが意欲的に取り組む授業づくりの中で生きる力を付けていくために必要であることを体感している。この体感については、経験値の少ない教員にとって大切な助言・指導になる。

2 生徒指導提要から

令和4年に出された生徒指導提要を見ると、第I部生徒指導の基本的な進め方、第1章生徒指導の基礎、1.1 生徒指導の意義、1.1.2 生徒指導の実践上の視点、(2) 共感的な人間関係の育成の中に「学級経営・ホームルーム経営（以下「学級・ホームルーム経営」という。）の焦点は、教職員と児童生徒、児童生徒同士の選択できない出会いから始まる生活集団を、どのようにして認め合い・励まし合い・支え合える学習集団に変えていくのかということに置かれます。失敗を恐れない、間違いやできないことを笑わない、むしろ、なぜそう思ったのか、どうすればできるようになるのかを皆で考える支持的で創造的な学級・ホームルームづくりが生徒指導の土台となります。そのためには、自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる相互扶助的で共感的な人間関係をいかに早期に創りあげることが重要となります。」とある。更に「1.3.3 ガイダンスとカウンセリング」の中には現行学習指導要領との関係性について「ガイダンス」、「カウンセリング」については、個別指導と集団指導に関連して丁寧に説明されている。この点についても、学級経営との関係について大切な所である。

3 学習指導要領特別活動編から

特別活動について見ていくこととする。小学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別活動編によると「第2章 特別活動の目標」、「第2節 特別活動の基本的な性格と教育活動全体における意義」、「2 特別活動の教育活動全体における意義」の「(2) 学級経営の充実と特別活動」において、次のように述べられている。「特別活動は、教育課程全体の中で、特別活動の各活動・学校行事において資質・能力を育む役割だけではなく、学校教育全体の活動を通して行われている学級経営に寄与することから学習指導要領では次のとおり示された。学習指導要領第1章総則の第4の1の(1)で「学習や生活の基盤として、教師と児童との信頼関係及び児童

相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること」が示されている。これに対応して、学習指導要領第6章特別活動の第3の1の(3)で、学級活動における児童の自発的、自治的な活動を中心として学級経営の充実をはかることが以下のように示されている。学級は、児童にとって、学習や生活など学校生活の基盤となるものである。児童は、学校生活の多くの時間を学級で過ごすため、自己と学級の他の成員との個々の関係や自己と学級集団との関係は、学校生活そのものに大きな影響を与えることとなる。教師は、個々の児童が、学級内でよりよい人間関係を築き、学級の生活に適応し、各教科等の学習や様々な活動の効果を高めたいと考え、学級内での個別指導や集団指導を工夫していく。学級経営の内容は多岐にわたるが、学級集団としての質の高まりを目指したり、教師と児童、児童相互のよりよい人間関係を形成しようとしたりすることは、その中心的な内容である。そのため、学級担任が学校の教育目標や学級の実態を踏まえて作成した学級経営の目標・方針に即して、必要な諸条件の整備を行い運営・展開されるものである。その点では、児童が自発的、自治的によりよい生活や人間関係を築こうとして様々に展開される特別活動は、結果として児童が主体的に集団の質を高めたり、よりよい人間関係を築いたりすることになる。

学級がよりよい生活集団や学習集団へと向上するためには、教師の意図的、計画的な指導とともに、児童の主体的な取組が不可欠である。まさしく、学級経営は、特別活動を要として計画され、特別活動の目標に示された資質・能力を育成することにより、さらなる深化が図られることとなる。こうしたことを通して、本章第2節の1の(1)で説明したような、学びに向かう集団づくりの基盤となり、各教科等で「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を行う上では、こうした基盤があることは欠かせないものである。」と丁寧に説明されている。特に注目すべきは、「学級経営は、特別活動を要として計画され、特別活動の目標に示された資質・能力を育成することにより、さらなる深化が図られることとなる。」

の部分になる。学級経営を展開していく中で特別活動がいかに大切であるか指摘している。特に、「学級活動における児童の自発的、自治的な活動を中心として学級経営の充実をはかること」と言う文章の「活動」という文字に注目したい。活動とは、活発に行動することとであることから、特別活動においては、為すことによって学ぶ姿勢が大切である。教員側も児童生徒側もよく認識した上で進めたい。

Ⅲ 学びに向かう集団づくり

学習指導要領特別活動編で示された「学びに向かう集団づくり」については、栃木県教育委員会から平成21年に次項のような教員向けリーフレットが出ている。このリーフレットにあるように学びに向かう集団づくりを、「帰属意識の高い学級づくり」、「規範意識の高い学級づくり」、「互いに高め合える学級づくり」と3つの観点で具体的に説明している。ここでは、この3つの観点での具体策の基盤となる考え方を論じていく。

①帰属意識の強い学級づくり

自分がこの学級集団で良かったと心の底から思える学級をつくっていく必要がある。その為には、この集団での自分の居場所があることが必要である。発達の段階が上がるにつれて強くなる。基本的に、集団を構成するのは、児童生徒であるが、教師の関わり方も大切である。教師は時として、児童生徒集団の一員であるかのように振る舞うことも必要であり、時として、一步高い指導者として振る舞うことも必要である。指導者としては、とにかく良いことがあったら褒めることである。褒めることで、児童生徒の自己存在感が高まるばかりでなく、自己肯定感、自己有用感等も高められる。しかし、駄目なものは駄目とした、毅然とした態度で叱ることも大切である。

②規範意識の高い学級づくり

集団で生活するためには、ルールを守った生活をしていくことが必要である。しかし、ルールに縛られた毎日を送るのは避けたい。その為には、

集団生活上のルールの必要性を児童生徒が認識することである。教師としても、頭から押しつけるのではなく、実態から判断して必要性を感じ取る姿勢を持つことである。その為には、必要最低限のルールから学級経営を始め、失敗や成功体験から新たなルールを集団を構成する児童生徒と担任である教師が共に考えつくなっていくことである。

③互いに高め合える学級づくり

高め合うための理想像を共有することが大切である。互いに高め合うための人間関係づくりの段階に到達するまでにはかなりの期間が必要である。期間の長さを決定するのは、教師の姿であり、児童生徒のリーダー的存在の力である。

さらに、栃木県総合教育センターでは「学業指導の充実 ～子どもが意欲的に取り組む授業づくりを通して～（平成26年）」として、学業指導の充実について「授業づくり」についても冊子として資料提供している。このときの編集責任者として、金井が概要説明をしている。

あなたは、学業指導を知っていますか！

学業指導は、学習指導のねらいを達成するための基礎をつくっていくことです。

平成21年1月 7月まで
栃木県教育委員会

教職員用リーフレット

“集団の中で学ぶ”という学校教育の特質を生かして、子どもたち一人一人を成長させるという視点が大切です。学業指導とは、それぞれの学級を「学びに向かう集団」に高めながら、児童生徒一人一人が自らの力で様々な不適応を解消し意欲的に学習活動に取り組めるように指導・援助していくことにほかなりません。

I 学びに向かう集団づくりのために

どのような集団に属しているかで、子どもの成長は大きく異なります。一人一人の向上のためには、個への指導・援助とともに、属する学級を、互いに高め合うことができる「学びに向かう集団」につくり上げていくことが重要です。

そのため、以下の三つの視点に留意した学級づくりに取り組みましょう。

- 1 帰属意識の高い学級づくり
 - 一人一人が周囲から認められていると感じる活動場面を工夫する。
 - 協力して一つのことに取り組めるように工夫する。
 - できるだけ子どもたちの発想に基づき活動を取り入れる。
 - 心からの感動体験を意図的に創出する。
- 2 規範意識の高い学級づくり
 - 学校・学級で守るべきルールを明確にする。
 - 集団にはルールが不可欠であることを体験をとおして学ばせる。
 - 子どもたちが自ら約束を決め、協力して実行できるように工夫する。
- 3 互いに高め合える学級づくり
 - 全員が参加して学級の目標を設定する。
 - 学級のために自分は何ができるか、自ら考えるように指導を工夫する。
 - 当番や係活動の活性化を図る。
 - 互いに夢や目標を語り合う場や機会を設定する。

互いの問題を
回りながら、
指導を充実させて
いくことが
大切です。

II 子どもが意欲的に取り組む授業づくりのために

教師にとって大切なことは、何といっても日々の授業の改善です。授業をとらして、教科のねらいの定着を図るために、児童生徒一人一人が学習活動に自主的かつ意欲的に取り組めるように、指導・援助する必要があります。

そのために、以下の三つの視点に留意した授業を実践していきます。

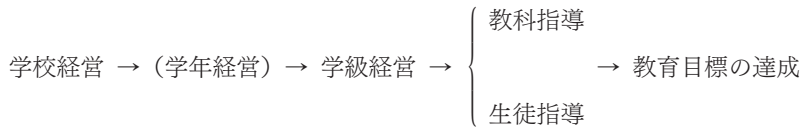
- 1 自信をもたせる授業
 - 認める・ほめる・励ます機会を意図的に設定する。
 - 最後までやり遂げた結果として成功体験が積めるように指導を工夫する。
 - 時には思いどおりにならない体験をさせる。
 - 自分で選択・決定する場面を発達段階に応じた設定する。
- 2 コミュニケーション能力をはくむ授業
 - 相手の話を聞いたり自分の言葉で伝えたりする活動を取り入れる。
 - 協力し合う場面を設定する。
 - 子ども同士が教え合う活動を意図的に設定する。
 - 自己理解、他者理解を促すために、自己評価・他者評価を活用する。
- 3 一人一人の実態に配慮した授業
 - 毎日、授業や家庭生活を振り返る場や時間を設ける。
 - 教育相談を意図的・継続的に実施する。
 - 学習不応の解消に向けた組織的な指導・援助体制を整える。

各学校において、あらゆる教育活動をとらして学業指導の充実に取り組みましょう

IV 目的と方法

学校経営はその目的の達成のために、学年経営そして学級経営へと縦軸的な構成を示していく。学級経営を機能として考えれば、「学習指導」と「生徒指導」に分けることができる。その二面性を小学校教員は1人で、学級担任として進めることになる。

その構造を下図に示す。



このときの生徒指導を考えてみる。

令和4年版生徒指導提要には、以下のようには定義されている。

「生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができ存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。なお、生徒指導上の課題に対応するために、必要に応じて指導や援助を行う。」

この定義の中で、「児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができ存在」とは、学習指導要領でいういわゆる「生きる力」を育てていくことである。さらに、「自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動」からは、児童生徒が自発的・主体的に成長発達させる指導の上で、支える活動をしていくことの必要性がある。さらに現状では、生徒指導上の課題として、いじめ、暴力行為、非行、虐待、自殺等、多くの内容がある。

これら課題を解決していき、児童生徒が生きる力を身につけていくためには、学教教育上カリキュラムの考え方を効果的に進める必要がある。学校教育は「顕在的なカリキュラム」である教育課程上での日々の教育活動があるが、「潜在的カリキュラム」は、道徳教育と特別活動における、課題予防的生徒指導として、問題が起こらないような雰囲気を作っていくの

に大切なカリキュラムである。この潜在的カリキュラムの存在を十分に意識することにより生きる力の要素である豊かな心の育成のためには道德教育をどう考えるかが大切である。道德的価値観を高め、道德的実践力、道德性を付けていくことが必要である。次に来るのは道德的な行為を行うことができるかということである。このためには、特別活動における集団的な活動、体験的な活動により成される。

学級担任教員がより良い学級づくりを行うにはどのような経営が大切なのか。具体的な事例を紹介していく。

V 学級経営について

1 学級経営

学級経営は、児童相互の人間関係を円滑にして、学校教育目標達成のために努力していくことと捉えることができるが、そのような努力ができるのは、担任教員と児童の関係が深い信頼に結びついていることが必要な条件となる。いくら児童の関係を良くしようと努力しても、教師と児童の関係性が良くなければならない。実はこのための努力があつてこそ、学級経営がうまくいくのである。

学級経営については、児童の発達に応じた指導が大切である。平成29年度 小学校学習指導要領解説 特別活動編 によると下図のように、学級活動の各学年段階の配慮事項と道德教育の各学年段階の重点が示されている。この図に示されている小学校の低学年、中学年、高学年の児童を担当した教員が思い浮かべると実に納得する内容である。

このように、特に小学校においては6年間の各学年段階の配慮事項、重点に配慮した上で、学級経営を進めていく必要がある。

	学級活動の各学年段階の配慮事項	道徳教育における各学年段階の重点
第1学年 及び第2 学年	話し合いの進め方に沿って、自分の意見を発表したり、他者の意見をよく聞いたりして、合意形成して実践することのよさを理解すること。基本的な生活習慣や、約束やきまりを守ることの大切さを理解して行動し、生活をよくするための目標を決めて実行すること。	挨拶などの基本的な生活習慣を身に付けること、善悪を判断し、してはならないことをしないこと、社会生活上のきまりを守ること。 (各学年共通) 自立心や自律性、生命を尊重する心や他者を思いやる心を育てることに留意すること。
第3学年 及び第4 学年	理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れたりしながら、集団としての目標や活動内容について合意形成を図り、実践すること。自分のよさや役割を自覚し、よく考えて行動するなど節度ある生活を送ること。	善悪を判断し、正しいと判断したことを行うこと、身近な人々と協力し助け合うこと、集団や社会のきまりを守ること。 (各学年共通) 自立心や自律性、生命を尊重する心や他者を思いやる心を育てることに留意すること。
第5学年 及び第6 学年	相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、多様な意見のよさを積極的に生かして合意形成を図り、実践すること。高い目標をもって粘り強く努力し、自他のよさを伸ばし合うようにすること。	相手の考え方や立場を理解して支え合うこと、法やきまりの意義を理解して進んで守ること、集団生活の充実に努めること、伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重すること。 (各学年共通) 自立心や自律性、生命を尊重する心や他者を思いやる心を育てることに留意すること。

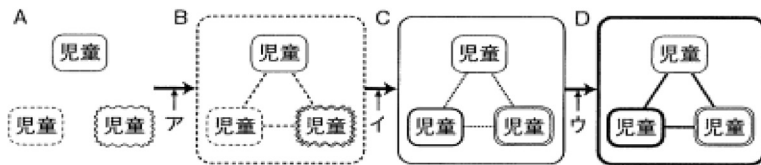


図9-1 学級経営の進行、発展の様子

また、上図の「教職入門（改定版）協同出版社版 令和5年2月（金井作成）」にあるように、学級経営は、年間を通して、人間関係が深まり、学級という単位の枠組みも強くなっていくことにより、目的が達成されるものである。上図では、**A B C D** と年間に進むことになる。進めるためには **ア イ ウ** と指導の工夫が必要である。特に、**ア イ ウ** に関しては、特別活動は大切な働きを持っている。学級経営計画と特別活

動を具体的に示していきたい。

2 学級経営計画の作成について

学級とは、同学年の児童生徒の集団である。そして学級は、一人一人の児童生徒が、毎日を安全に安心して過ごすことのできる場所であり、教師や他の児童生徒との人間的なふれあいを通して、互いのよさを認め合い、自分らしさを発揮しながら自己実現を図ることができる場所であるということが重要である。

そのために、学級担任は学校教育目標や学年目標、学年・学級の実態等を踏まえて、「学級経営計画」を作成する。その中で、学級担任としての学級経営方針や指導の重点等を明らかにして、必要な諸条件の整備を行い、学級経営を展開していくのである。

「学級経営計画」は、学級担任が理想とする学級を作り上げていくための地図であり、大事な道標となるものである。作成の様式は市や町、学校によって形式が異なっており、学級で独自に作成する部分と、学校・学年内で共通する部分があり、学校・学年内で共通理解・連携協力していくことも重要である。また、「学級経営計画」には、何と言っても学級担任としての願いや考えを込めて作成したい。「こんな学級にしたい。」「こんな子供に育ててほしい。」というように、教師として担任する学級や児童に対しての熱い思いを表現したい。そして、その「学級経営計画」は、児童生徒に気持ちを込めて伝えることはもちろん、管理職を始め、他の教員や保護者等にも理解をしてもらい、協力を得ることが重要である。そういった周囲の協力が学級担任の支えにもなると思われる。

1年後の学級の成長を夢見ながら、学級担任としての願いや思いを込めて「学級経営計画」を作成し、夢や期待を胸に、わくわくするような新たなスタートを迎えたいものだ。

「学級経営計画」の作成にあたって、主な項目について以下に述べる。

(1) 学級目標の設定

学級目標は、その学級が1年間を通して目指していく方向（目的地）を示すものである。学級担任が一方的に決めてしまう、押しつけてしまうような目標では意味がない。学級目標づくりには、学級に所属する全ての児童生徒が関わることで、学級への帰属意識や所属意識が高まるのではないだろうか。また、目標の実現に向けて、仲間と力を合わせて活動していくことで、望ましい人間関係が築かれていくのではないだろうか。さらに、目標達成に向けて、学級の一人一人が努力し成長することで、達成感や充実感を感じることができるのである。

そして、学級目標は常に児童生徒が意識するように、正面の黒板の上に掲示するなどして、日常の生活だけでなく、学級活動や学校行事など、目標をもって取り組む様々な教育活動の場面で意識して活用していきたい。1年を終えたときに、こんな学級になっていたらうれしいと、学級の誰もが思えるような目標にしたい。

【学級目標の作成上の留意点】

- 学校教育目標や学年目標を踏まえて考えること
- 学級担任としての思いや考えを伝え、反映させること
- 児童生徒自身が「どんな学級にしたいか」という学級を大切にす
る気持ちや学級内でのそれぞれの考えをまとめ、共通理解をさせること
- 学級の実態を踏まえた目標を作成すること

(2) 学級経営方針

学級経営の内容は多岐にわたるが、学級集団としての質の高まりを目指したり、教員と児童生徒、児童生徒相互のよりよい人間関係を構築したりすることが中心的な内容と言える。学級担任は「学級経営計画」に基づいて学級経営を展開する。その中で、学級目標とつながった「学級経営方針」

は、児童生徒の学習面・生活面・健康面・行動面・心情面などについての行動の方向性や原則を示したものである。学級目標作成と同様に、「学校経営方針」や「学年経営方針」、そして、児童生徒の実態を踏まえた学級経営方針を示すことが大切である。

【学級経営方針の作成上の留意点】

- 学級目標を踏まえて、より具体的に取り組むことを考えること
- 学級の実態をよく考えて、無理のないように作成すること
- 児童生徒の発達段階に即したのものになっているか検討すること

(3) 努力点と具体策

児童生徒の目指す学級を「学級目標」として作成し、学級担任の目指す学級経営を「学級経営方針」で示した後、次は、それらを達成するために「努力点」や「具体策」を考える。目指す学級像を具現化するために、具体的な手立てを考えることが必要である。1年間継続していくことが大切だが、一定期間の中で評価をして、学級の状況によって修正を加えていくことも必要ある。

【努力点と具体策の例】

例えば学級経営方針として、「自他を認め合い、互いが信頼し合える人間関係を築く学級づくりに努める」を設定した場合、そのための具体策として、次のようなことが挙げられる。

- 毎日の帰りの会で「いいところ探し」を実施し、仲間のよさを見る目を育てる。
- 道徳科の授業の充実を図る。
- 学級活動での「話し合い活動」を協力して進められるよう指導する。
- 誰に対しても自分からあいさつできるよう指導する。

次に、小学校の「学級経営計画」の低学年・中学年・高学年の例を示す。

学級経営計画【第2学年】(例)

学校教育目標	学年目標	学級目標	学級経営方針	努力点	具体策
【知】	よく考えて進んで話ができる子 よく考え自ら学ぶ子	はなしをよくききはつききはなそう	●話す人をよく見て最後まで聞き、自分の考えをはっきり話そうとする態度を育てる。	①話し方・聞き方の態度を育てる。 ②言語活動の充実を図る。	①話し方・聞き方の掲示物を活用し指導する。 ②1分間スピーチやグループ学習等での発表の場を取り入れ、意見を言える場の設定をする。
			●基本的な学習態度を身に付けさせ、学力の向上を図る。	③基礎基本の定着を図る。 ④読書を習慣化させる。 ⑤家庭学習で家庭との連携を図る。	③毎日の学習で漢字・計算ドリルの練習を活用する。 ④朝の読書、家庭読書の記録カードを活用する。 ⑤家庭での学習に協力と理解を得る。
【徳】	仲よく助け合う子 きまりを守り誰とでも仲よくする子	きまりをまもってともだちとなかよくしよう	●自分や友達の良いところをお互いに認め合い、助け合うことの大切さを学ばせる。	①一人一人のよさを認める学級の雰囲気づくりに努める。	①帰りの会で「いいこと探し」の発表し、互いに認め合う場を設定する。 みんなで一緒に遊ぶ時間を設定する。
			●基本的な生活習慣を身に付けさせる。	②あいさつや返事を元気にできるようにする。 ③善悪の判断ができるよう道徳教育を充実させる。 ④連絡帳などで家庭との連携を図る。	②元気なあいさつや「ありがとう」「ごめんね」を意識させる指導をする。 ③「自分がされて嫌なことはしない」という指導を徹底する。 ④気づいたこと・気になることを保護者に連絡しながら協力してもらうようにする。
【体】	さいごまでがんばる子 明るく元気な子	さいごまであきらめずにがんばろう	●目標に向かって取り組む、最後までやり遂げる気持ちを育てる。	①学習・生活の目標を持たせて最後までやれるよう取り組ませる。 ②わかる授業を実施する。	①めあての確認と振り返りを大切に、最後まで取り組み達成感を味わわせる。 ②授業のねらいを明確にして一人一人の頑張りを認める授業を展開する。
			●自分の健康を考えさせ、安全な生活を送ることができるよう指導する。	③体力づくりに取り組む。 ④安全な生活を送ることや安全な登下校を心掛けるよう指導する。	行間の時間を活用して体力の向上を図る。 ④登下校のきまりを守ることの大切さと、食育指導において、朝ごはんの大切さや好き嫌いせずに食べることの大切さを指導する。

学級経営計画【第4学年】(例)

学校教育目標	学年目標	学級目標	学級経営方針	努力点	具体策
【知】	よく考え自ら学び子 話をよく聞き 積極的に発表する子	話をよく聞き 進んで発表しよう	●確かな学力を身に付けさせるために、工夫した学習指導に取り組む。	①児童が、主体的に学習に取り組む態度を身に付けさせる。 ②言語活動を効果的に取り入れる。	①基礎・基本の定着を図るとともに、自主学習を継続的に行う習慣を身に付けさせながら、児童の主体的な態度を育てる。 ②ペア活動やグループ学習を効果的に活用する。
			●相手の考えをしっかり聞くことと、自分の考えを進んで発表する態度を育てる。	③思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業に努める。 ④進んで読書に親しむようにする。	③自分の意見を持ち、積極的に発言できる場面や、友だちと考えを深めていく場面を意識して設定する。 ④読書カードの活用、図書紹介に取り組む。
【徳】	仲よく助け合う子 きまりを守り 友だちと協力する子	はじめをつけて 友だちと仲よくしよう	●元気で明るいあいさつや礼儀など、はじめある生活ができる態度を育てる。	①明るく元気なあいさつや返事ができるようにする。 ②家庭との連携を密にする。	①教師自ら手本となり、笑顔で明るいあいさつを心がけて指導する。よいあいさつや返事に対して賞賛する。 ②連絡帳や学級だよりを活用する。
			●相手の気持ちを考えて、発言・行動し、友だちと協力できるよう指導する。	③楽しく居心地のよい学級の雰囲気づくりに努める。 ④仲間のよさを見つめる態度を育てる。	③学級活動での話し合い活動やレクリエーションを通して、仲間のよさや個性を認め合える場を大切にする。 ④帰りの会で「ありがとう」の発表をする。
【体】	健康で最後までがんばる子 明るく元気な子	目標に向かって 元気に最後までがんばろう	●健康な生活について関心を持たせ、体力の向上を図る。	①児童に自分の健康や安全について考えさせ、関心を深める指導をする。 ②児童の体力向上に努める。	①保健の指導と関連付けながら、健康・食育・安全等に関する指導を行う。 日頃から健康・安全の大切さを考えさせるよう声かけや助言をする。 ②体育の時間と休み時間の活動を充実させる。
			●何事にも最後まで一生懸命取り組む態度を身に付け、達成感を味わわせる。	③最後までやり遂げることの大切さを味わわせる。 ③授業において、ねらいを明確にし、達成感を感じる授業ができるように努める。	

学級経営計画【第6学年】(例)

学校教育目標	学年目標	学級目標	学級経営方針	努力点	具体策
【知】	よく考え自ら学び子	自分の考えをもち進んで学習できる子	<p>●向上心をもって学習に取り組み、自分の考えを堂々と発表する態度を育てる。</p> <p>●相手の考えをしっかり聞くことと、深く考えることができるよう指導する。</p>	①基礎・基本に加え、個別最適な学びとなるよう指導の工夫を図る。	①基礎・基本の定着を図るとともに、家庭学習の内容を工夫し、児童の主體的な態度を育てる。
				②言語活動を効果的に取り入れる。	②様々な発表の仕方を指導し、発表場面を多くする。
【徳】	仲よく助け合う子	心豊かで仲間と助け合う子	<p>●きまりを守り自分から元気に明るいあいさつをしたり、礼儀正しい生活ができるよう指導する。</p> <p>●誰に対しても優しく、人のためにできることを考えられる心を育てる。</p>	③人の話をしっかりと聞く習慣を身に付けさせる。	③人の話を目と耳と頭と心で最後までしっかりと聞くよう日頃から指導する。
				④自分の考えを書く習慣をつける。	④日記に自分の考えを書く習慣をつけさせる。
【体】	明るく元気な子	<p>●進んで体力づくりに取り組み、健康的な生活を送ることができるよう指導する。</p> <p>●最後まであきらめずに一生懸命取り組む態度を身に付け、目標達成の充実感を味わわせる。</p>	①誰に対しても自分から進んで明るいあいさつができるよう指導する。	①あいさつ運動やあいさつ週間などを活用して、いつでも誰に対しても明るいあいさつができる態度を身に付けさせる。	
			②道徳の授業の充実を図る。	②きまりを守る、望ましい生活習慣を重点的に指導する。	
【体】	明るく健康であきらめずにがんばる子	<p>●進んで体力づくりに取り組み、健康的な生活を送ることができるよう指導する。</p> <p>●最後まであきらめずに一生懸命取り組む態度を身に付け、目標達成の充実感を味わわせる。</p>	③お互いを理解し、温かい学級の雰囲気づくりに努める。	③学級活動での話し合いを協力して進められるよう支援し、アイデアを生かした係活動や班活動ができるように指導する。	
			④友だちのよさを見つける態度を育てる。	④帰りの会で「やさしさ見つけ」の発表をする。	
【体】	明るく健康であきらめずにがんばる子	<p>●進んで体力づくりに取り組み、健康的な生活を送ることができるよう指導する。</p> <p>●最後まであきらめずに一生懸命取り組む態度を身に付け、目標達成の充実感を味わわせる。</p>	①体力づくりや健康に対する学級や個人の目標を立て、達成に向けた努力をさせる。	①体育の時間とともに、食育や保健指導を充実させ、自分の健康や命を大切にする気持ちを育てる。 感染症防止のため手洗い・うがいを習慣化させる。	
			②児童の体力向上に努める。	②体育の時間と休み時間の活動を充実させる。	
【体】	明るく健康であきらめずにがんばる子	<p>●進んで体力づくりに取り組み、健康的な生活を送ることができるよう指導する。</p> <p>●最後まであきらめずに一生懸命取り組む態度を身に付け、目標達成の充実感を味わわせる。</p>	③最後まであきらめずにやり遂げることの大切さを味わわせる。	③授業等において、ねらいを明確にし、目標に向かって根気強く取り組み、達成感や充実感を感じる指導ができるように努める。	

(4) 具体的な指導

①学級開き

新たに学校に入学するときや、新しい学年に進級するとき、児童生徒はどんな気持ちで「学級開き」を待っているだろうか。新たな出会いや新たな生活への期待もあるだろう。しかし、環境の変化に大きな不安を抱えていることも事実である。「友達ができるだろうか」「担任の先生はどんな先生だろう」「勉強について行けるだろうか」など。「学級開き」はこれらの不安を取り除き、児童生徒が安心感や期待感を抱くことができ、学校生活を円滑にスタートさせることをねらいとすべきである。

そのために、大切にしたいのは、学級の児童生徒と初めて出会う場面での第一声である。何よりも担任の願いや思いを子どもたちに明確に伝えることが大切である。その際に、言葉で伝えることはもちろん、黒板にメッセージを書くことや、掲示物、電子黒板の画像、学級だより等を活用するなどして、子どもたちの心に残るようなスタートになるようにしたい。

②学級組織づくり

学年や学期の変わる節目に行われる「学級組織づくり」は、学級全ての児童生徒に役割と責任をもたせることで、学級への帰属意識を高める絶好の機会である。「自分が学級に貢献している」「自分がみんなの役に立っている」という自己有用感を育てていきたいものである。児童生徒自身による「この学級にはどんな係が必要か」ということや、係の決め方についての話し合い、希望通りになれなかった児童生徒に対する支援など、一人一人が意欲をもって取り組める工夫をしたい。そして、日頃の活動に対して、褒めて励まし、認める指導をしていきたい。

③教室環境の整備

児童生徒が落ち着いて生活や学習ができるように、学級担任として教室環境を整えることは重要である。教室が汚れていたり、掲示物がはがれて

いたり、古い情報がそのままであったりしては、児童生徒の生活にもよい影響を与えない。

- 一人一人の役割が掲示されている。
- 学び方・学習の歩み・学習の成果が表れている。
- 児童生徒の作品に担任の温かいコメントが付されている。
- 係活動やその他の活動が主体的に行われている様子が表れている。

以上のようなことを意識して教室環境を整えるようにしたい。児童生徒が、自分の教室の居心地のよさを感じることができて、個人や学級の成長の跡が見える教室づくりを心がけたい。

④学級だより

学級だよりには、「必要な情報を伝える」「児童生徒の活動の様子を伝える」「担任としての思いや願いを伝える」など様々な要素がある。学級や学校の様子を保護者に伝えることは、保護者に安心感を与え、家庭の協力も得やすくなる。また、担任の児童生徒に対する思いを感じてもらえらるだろう。「公正公平」「個人情報」の取扱いに、十分注意しなくてはならないこと、そして、保護者に出す文書として、管理職や学年主任等に見てもらうことも忘れないようにしたい。

⑤日々の生活指導

将来、児童生徒が社会の中で自立して生活していく基礎を培うために、あいさつ、規則正しい生活など基本的な生活習慣を身に付けさせることは、学級担任の大切な仕事である。学校や学年、学級にはそれぞれルールがあるが、「～してはいけない」という指導だけでなく、ルールの意義や理由を理解させる指導も重要である。また、指導する内容や基準は、学校・学年等で共通理解を図ることも必要である。児童生徒一人一人の特性や家庭、人間関係などの背景も踏まえるとともに、児童生徒の内面を理解しながら指導にあたりたい。

⑥学級活動

学級活動は、「学級経営の要」とも言える。それは、学級活動の中で行われる話し合い活動が、お互いを理解し、よりよい人間関係をつくるのに有効な場面だからである。話し合い活動の中で、相手の意見を聞くこと、自分の考えを伝えることを大切に、合意形成を図ることが大切である。

そのために、次のことを意識して指導していきたい。

- 児童生徒がよりよい学級や学校の生活づくりに関わる問題を見つけて進んで提案する雰囲気をつくる。
- 委員会等の組織を生かし、問題を解決するために全員で話し合う議題を子供たち自身で決める。
- 話し合いに向けて事前に計画を立てる。
- 話し合い活動で、意見をまとめる。
- 決まったことをもとに、役割分担し、児童生徒全員で協力して実践する。

⑦児童生徒との担任としての関わり

児童生徒にとって、「信頼できる教師」「尊敬できる教師」になるためには、日々、児童生徒との関わり方に注意しなくてはならない。

そのために、次のことを日頃から担任として取り組む基本として意識したい。

- 児童生徒一人一人に対して公正公平な態度で接する。
- 笑顔を大切にする。
- 児童生徒の目を見て、話を聞く・話をする。

VI 特別活動について

1 特別活動の時間と目的

特別活動については、学校教育施行規則の第4章小学校の第二節教育課程、第五十条に「小学校の教育課程は、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育及び外国語の各教科(以下この節において「各

教科」という。)、特別の教科である道徳、外国語活動、総合的な学習の時間並びに特別活動によって編成するものとする。」とある。

又同法の別表第一(第五十一条関係)において、授業時数は下図のようである。

別表第一(第五十一条関係)

区 分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
各教科の 授業時数	国 語	306	315	245	245	175	175
	社 会			70	90	100	105
	算 数	136	175	175	175	175	175
	理 科			90	105	105	105
	生 活	102	105				
	音 楽	68	70	60	60	50	50
	図画工作	68	70	60	60	50	50
	家 庭					60	55
	体 育	102	105	105	105	90	90
外 国 語					70	70	
特別の教科である 道徳の授業時数		34	35	35	35	35	35
外国語活動の授業時数				35	35		
総合的な学習の 時間の授業時数				70	70	70	70
特別活動の授業時数		34	35	35	35	35	35
総 授 業 時 数		850	910	980	1015	1015	1015

この表はあくまでも標準授業時数である。2023年4月に文部科学省の公表した調査結果では、小学校5年生の年間総授業時数は全国平均1078.3単位時間であり、標準授業との差は $1078.3 - 1015 = 63.3$ 単位時間となる。この時間の中に特別活動の時間が含まれている。別表第一では特別活動の授業時数のうち、学級活動だけが示されているので、4つの領域で構成されている特別活動は、他に児童会活動、クラブ活動、学校行事がある。この4領域では、学校行事が多くの時数を占めるのが通例である。教員として勤務していると、学校現場で学級経営を確実に進めるには、まるで学校行事の間に教科授業を進めている感がある。

特別活動の目的は、小学校学習指導要領が示している、以下のようである。

「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。」

また、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別活動編の第1章総説一特別活動改訂の趣旨及び要点に次のようにある。

「○小学校、中学校ともに、学級活動における児童生徒の自発的、自治的な活動を中心として、各活動と学校行事を相互に関連付けながら、学級経営の充実を図ることとした。

○特別活動の特質は、学級経営や生徒指導の充実とも深く関わるものである。

○特別活動は、学級活動を通して、学級経営の充実を図りながら、学びに向かう集団の基盤を形成する。また、児童会活動、クラブ活動、学校行事における多様な集団活動を通して、よりよい人間関係を形成することも、児童が安心して学習に励むことができることにつながっていく。」

この点については、繰り返し述べているところであるが、学級経営と特別活動の関係は深く関わるものであるし、学校現場でのカリキュラムを経

験したものであれば体感できることである。

2 学級経営に生かす特別活動について（主に学校行事から）

特別活動は、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」ことを通して、資質・能力を育むことを目指す教育活動である。

また、特別活動は、教育課程全体の中で、特別活動の各活動・学校行事において資質・能力を育む役割だけではなく、学校教育全体の活動を通して行われている学級経営に寄与する。

学級がよりよい生活集団や学習集団へと向上するためには、教師の意図的、計画的な指導とともに、児童の主体的な取組が不可欠である。まさしく、学級経営は、特別活動を要として計画され、特別活動の目標に示された資質・能力を育成することにより、更なる進화가図られることとなる。

中でも「学校行事」は学級経営に重要な役割を果たしている。学校行事を学級経営に生かす上で、大切なことを考えたい。

（1）学校行事の目的・意義

学校行事とは、よりよい学校生活を築くために体験的な活動を通して、集団の所属感や連帯感を深め、公共の精神を養う活動である。全校または学年などの大きな集団で児童が協力して行うことに意義がある。

（2）具体的な内容と期待される成果

学校行事には、①儀式的行事②文化的行事③健康安全・体育的行事④旅行・集団宿泊の行事⑤勤労生産・奉仕的行事の5種類がある。

例えば、健康安全・体育的行事には「避難訓練」や「運動会」などがある。大きな学校行事である運動会は、仲間と共に運動に親しみ、体を動かす楽しさを味わう絶好の機会である。とりわけ大事にしたいのが、取組を

通して、学級・学年、さらには学校への所属感や仲間との連帯感を味わわせる機会にすることである。他者のよい面を発見したり、所属する集団への貢献を果たしたりすることで、こうした気持ちは確実に高まっていくと思われる。このことは他の行事においても同様のことが言える。

協力や協調が必要な学校行事は、児童生徒の公共の精神が高まるとともに、日常生活とは異なった大きな変化や節目となり、1年間の学校生活をメリハリのある豊かなものにしていくと思われる。また一人一人の児童生徒の内面の成長や学校としての秩序維持への効果もあり、学校運営上そして学級経営上とても大きな役割を担っていくのである。

（３）学校行事の多様な工夫

学校行事は、本来の目標を達成することはもとより、様々な教育的価値と結びつく活動を工夫することで、より大きな成果を得ることができる。このことを踏まえ、学校や地域の状況に応じて実施の工夫をすることが望ましい。

実施にあたっての工夫点として、次のようなことを取り入れたい。

- 児童会・生徒会や実行委員会が、主体的に企画運営をする。
- 年間指導計画に、行事との関連する教科学習や道徳、学級活動等を行事の時期に合わせて行う。
- 地域や小中高幼保の参加等により、地域と一体になって行う。

（４）学校行事を学級経営に生かすために

学校行事は、学級経営に必要な信頼関係やよりよい人間関係を構築するために、重要な役割を担っている。

学校行事を充実させるために、学級活動を通して提案や取組の在り方などを話し合い、合意形成を行うことが必要である。そして、学級活動における児童生徒の自発的、自治的な活動を中心として、各活動や学校行事を相互に関連付けることが大切である。

また、学校行事では、「行事の意義の理解」、「計画や目標についての話し合い」、「活動目標や活動内容の決定」、「体験的な活動の実践」、「振り返り」という学習過程の中で児童生徒の資質能力が育まれる。そのため、学級経営の充実を図り、児童生徒の学びへの積極的関与と深い理解を促すことを重視したい。そして、児童生徒が自他のよさや個性を尊重しつつ、互いに高め合うような学級づくりを進めていくことが望まれる。

【学校行事を学級経営に生かすための留意点】

- 児童生徒がこれまでどのような実践的な活動を経験してきたか、「キャリア・パスポート」の記述や行事の取組の様子から観察する。
- 学校の伝統やこれまでの歴史など、固定的に考えるのではなく、児童生徒の実態を把握し、児童生徒の自発的、自治的な活動を尊重し、創意工夫を生かす内容を検討する。
- 学校行事に向けた活動を通して、課題や困難な状況に気づき、それらを解決するために、学級活動で話し合って目標を決める。活動を通して、どのように乗り越え、解決するのかを重視する。

学校行事と学級活動を通じて醸成される自治的な活動は、多様な他者を尊重し、協働してよりよい生活づくりに参画しようとする連帯感を養うだけでなく、児童生徒の文化の創造や人間関係形成、社会参画、自己実現につながるものである。また、自治的な活動が充実されることにより、休み時間や放課後などにおいても、児童生徒の人間関係等により影響をもたらすのである。

児童生徒が、よりよい人間関係を築けるよう学校行事や体験的な活動を、学級経営の目標・方針に計画的に位置づけていくことが何より必要である。

※学校における「特別活動全体計画」、「学校行事指導計画」の例、「学級経営に生かす学校行事（担任の語りかけの例）」の例を示す。

令和〇〇年度 〇〇小学校 特別活動全体計画(例)		保護者・地域の願い
児童の実態	学校の教育目標 豊かな心と確かな学力を身に付けた心身とも健康な児童の育成 (1) 基本的・基本的な知識及び技能を主体的に習得して、自分のもので活用できる力の育成 (2) 児童自らを成長を促し高めたりしながら、新たな知識や価値を創造する力の育成 (3) 学ぶことを自分や生活と深く関わり得え、自分の生活や生き方に役立ちようとする態度の育成 による。	主体的に取り組む児童の育成、社会や他者と協働する児童の育成
地域の実態	特別活動の目標（学習指導要領） 集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活への課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。 (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けることによる。 (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を思いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定した行動をとることができるようにする。 (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生きかたについての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。	教職員への願い 様々な社会の変化を乗りこえ、心身共に健康で自らの意志で力強く生きる力の育成
家庭・地域との連携	学級活動の目標 学級や社会での生活をよりよくするための課題を思いだし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己探求の自覚や主体的な生活や生き方を意識的に実践して実践し、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。 児童会活動の目標 児童年齢の児童同士で協力し、学級生活の実践と向上を図るための諸問題を解決に向けて、計画を立てて役割を分担し、協力して運営することによる自主的、実践的な取り組みを通じて、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。 クラブ活動の目標 児童年齢の児童同士で協力し、共通の趣味・関心や志趣を有する児童間の計画を立てて運営することに自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。 学校行事の目標 全校又は学年の児童で協力的、よきよき学級生活を営むための諸問題を解決して運営することによる自主的、実践的な取り組みを通じて、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。	各教科等との関連 (各教科、道徳科、外国語活動、総合) ・特別活動を通して自己学習や自己発見を促し、成長や課題を克服する。(評価) ・行事後のキャリアパスポートへ振り返り等の活用 ・各教科や道徳、総合的な学習の時間、学校行事等と連携して実施することによる学級の主体的な関与を図りながら自らを目標とする。
本年度の特別活動の重点目標 自己や集団の生活、人間関係の中から課題を思いだし、解決するために話し合い、合意形成を図るために必要な力や公共性に基づく判断力を育成する。		

各学年の目標		
【低学年】 学級の生活活動など決められた生活に最後まで取り組むとともに、当番活動、集会活動、学校行事において友だちと協力して楽しい学校生活を営むことができる子どもとする。	【中学年】 よりよい学級づくりに努め、係活動などを自分たちで工夫して取り組み、集会活動や学校行事で友だちのよさを認め合い、協力して楽しい学校生活を送ることができる子どもとする。	【高学年】 係・委員会活動・クラブ・学校行事等で、リーダーシップをとり、自主的に工夫しながら責任をもって取り組み、友だちと協力して豊かな学校生活を送ることができる子どもとする。

指導方針	学級活動	児童会活動	クラブ活動	学校行事																																										
	○自らよりよい生活を営むために合意形成をする話し合い活動のなかで、ルールを守って楽しく生活し、責任感や達成感を感じる活動を展開する。 ○学級活動 (3) の学習においては、キャリア・ノートを積極的に活用し、これでの学習活動の振り返り等を行う。	○よりよい学級生活を主体的に築くための話し合い活動や集団への参画など、自主的・主体的な活動を展開する。 (1) 児童会活動(組づくりと児童会活動の計画や運営) (2) 学年別児童会による交流 (3) 学校行事への協力 ○4年生以上の各学年(児童男女各1名、各委員の代表)による組織とする。必要に応じてクラブ活動(代表等(総務)班長)が参加する。 ・毎月3月26日6校時に実施(定期)し、隔月1回も行う。 ・運営委員会を中心に企画立案する。	○個性を伸ばし、楽しい学校生活や人間関係を築くのが目的を重視する。 (1) クラブの組づくりとクラブ活動の計画や運営 (2) クラブを牽引し活動 (3) クラブの成果発表 ・第4学年以上の全児童をもって組織する。 ・毎週木曜日(第1をを除く)第6校時を活動時間にする。 ・各学年の組づくりは成長をともに、次の学年へと引き継ぐ。 ・高い達成感や児童相互の刺激や交流を生かして活動(自主)する。 ・学年別クラブ(3年生)とクラブを兼行し、活動の成果発表の場とする。特に本年度の成果の発表とする。	○学校への所属感や達成感を高め、異色の意識、自然や文化の大切さを感じるなど体験活動を展開する。 (1) 儀式的行事 ・学校生活に有意義な変化や祈り目を行、厳粛で清らかな気分を味わい、新しい生活の開始の一助となるような活動を行うこと。 【学級発表会、校内音楽祭 など】 (2) 文化祭の行事 ・平常の学習活動の成果を発表し、自己向上の意欲を一番高めたり、文化や芸術に親しみたりするようにすること。 【学級発表会、校内音楽祭 など】 (3) 健康安全・体育の行事 ・心身の健全な発達や健康の保持増進、事故や事件、災害から身を守る安全行動や規律ある集団活動の体験、運動に関心や意欲を高めたり、健康や体力の向上に資するよう行うこと。 【集会、健康診断、避難訓練、交通安全教室、防犯教室など】 (4) 遠足・集団宿泊の行事 ・自然の中で集団生活活動などの卒業と異なる生活環境をもって、自律的な、自然や文化などに親しみるとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の振り返りや卒業活動などについての経験や学びができるようにすること。 【遠足、社会見学、自然体験学習(学校旅行)など】 (5) 勤労学習・奉仕の行事 ・勤労など社会生活の学びや実践するとともに、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験を得られるようにすること。 【栽培活動、空き缶回収(ウォークラリー)など】																																										
時数・組織等	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時数</th> <th>内容(1)</th> <th>内容(2)</th> <th>内容(3)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>10時間</td> <td>12時間</td> <td>10時間</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>11時間</td> <td>13時間</td> <td>11時間</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>10時間</td> <td>11時間</td> <td>4時間</td> </tr> <tr> <td>4年</td> <td>12時間</td> <td>10時間</td> <td>13時間</td> </tr> <tr> <td>5年</td> <td>10時間</td> <td>11時間</td> <td>14時間</td> </tr> <tr> <td>6年</td> <td>11時間</td> <td>11時間</td> <td>13時間</td> </tr> </tbody> </table>	時数	内容(1)	内容(2)	内容(3)	1年	10時間	12時間	10時間	2年	11時間	13時間	11時間	3年	10時間	11時間	4時間	4年	12時間	10時間	13時間	5年	10時間	11時間	14時間	6年	11時間	11時間	13時間	委員会活動 ・3年生以上の全児童で分担する。 ・隔週1回開催とする。 ・毎月1回職員を時給を定活動とし、その他時給活動を行う。 ・各学年活動委員長、副委員長、活動委員など	グラフ(はのり)とする。 ・パズルクラブ ・家庭科クラブ ・保健委員会 ・工芸クラブ ・バスケ・バレークラブ ・音楽クラブ ・ダンスクラブ ・バンド・ジャズクラブ ・科挙クラブ	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時数</th> <th>時数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>4.3時間</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>4.4時間</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>4.4時間</td> </tr> <tr> <td>4年</td> <td>4.5時間</td> </tr> <tr> <td>5年</td> <td>6.5時間</td> </tr> <tr> <td>6年</td> <td>6.5時間</td> </tr> </tbody> </table>	時数	時数	1年	4.3時間	2年	4.4時間	3年	4.4時間	4年	4.5時間	5年	6.5時間	6年	6.5時間
	時数	内容(1)	内容(2)	内容(3)																																										
1年	10時間	12時間	10時間																																											
2年	11時間	13時間	11時間																																											
3年	10時間	11時間	4時間																																											
4年	12時間	10時間	13時間																																											
5年	10時間	11時間	14時間																																											
6年	11時間	11時間	13時間																																											
時数	時数																																													
1年	4.3時間																																													
2年	4.4時間																																													
3年	4.4時間																																													
4年	4.5時間																																													
5年	6.5時間																																													
6年	6.5時間																																													

学級経営	児童指導	進路指導	学習の評価
学級における児童一人一人の理解を深め、教育的愛情をもって児童の内面に与え、主体的な関与を促すことに応じた適切な指導を行う。また、児童の人間関係に配慮し、よりよい集団づくりに努める。	日常生活の様々な場面で、自己の選択や決定の場や機会を与え、自己有用感を高め、社会的資質や行動力を高めるしていく。	・学級活動(3)の学習において、キャリア・ノートを積極的に活用する。	・評価の観点として、児童の学びや成長を促すための知識・技能・「集団や社会の形成者としての思考・判断・表現」 「主体的な生活や人間関係のよさによりよきよき生活」を促す。

学校行事指導計画(例)

行事名 「みんなが主役の運動会！」		種別 健康安全・体育的行事	対象 全学年		
児童の実態 ・学習や仕事にまじめに取り組む児童が多い。 ・主体性や積極性に欠ける。		地域の実態 ・新興住宅地と昔ながらの田園地帯が入り混じった地域で、教育に熱心な家庭が多い。			
育てたい力	○体力向上に向けて、自らの目標を立てて主体的に取り組む力 ○自己の役割を理解し、学級や集団への所属感を高め、協力して取り組む力				
指導目標	○全校生徒が年齢の枠を超えて、望ましい関係を築くとともに一生懸命取り組む。 ○集団行動を通して、仲間と協力して課題を解決する資質能力を育成する。				
実施日時	令和5年5月10日(水)9時30分～12時00分				
時数	総時数15時間	関連教科 体育・学級活動			
評価規準	集団行動を通して、体力向上に向けての知識技能	・運動会の意義と目的の理解 ・集団行動の仕方を身に付ける。			
	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 主体的に取り組む活動や人間関係をよりよくしようとする態度	・よりよい運動会ができるよう、考えたり協力したりして実践している。 ・体力向上に関心を持ち、仲間と積極的に活動しようとしている。			
学習活動	指導内容	時数	児童の活動	指導上の留意点	準備等
事前の活動	○目的の理解 ○児童主体での選択・決定	学級 児童会	①目的を理解し、個人の目標を立てる。 ②活動内容を考える。	①プログラムを作成する。 ②児童に練習・応援内容を考えさせる。 (評)活動に取り組む態度(知)	関係機関 児童会 係会議
当日の活動	○異年齢の仲間と仲よく活動する。(人間関係) ○役割分担(自己有用感) ○安全に行動・集団行動(社会参画)	学校 行事	①健康確認 ②開会式 ・児童会 ・団長あいさつ ③競技・演技 ・個人種目 ・学年種目 ・団体種目 ・応援合戦 ④閉会式 ・団長あいさつ ⑤学級指導	①学級担任 ②担当教員指導 ・校長 ・児童会(スローガン) ③教職員の係役割分担 教職員による安全確認・体調管理 (評)考えて行動(思考) ④児童会(成果発表) 担当教員の評価 ⑤学級担任による体調・怪我・事故等の確認 (評)児童の言葉、達成に向けて取り組んだ姿(態度)	救急用品 通信機器 準備物
事後の活動	○活動振り返り・反省	学級 児童会	①学級会 ②集団としての活動	①振り返り ②集団活動・成果と改善点 (評)自己有用感をもつ(態)	ノート アンケート
評価	・児童の抱負(ノート等)、観察(話し合い、計画準備等)				
	当日(活動) 事後活動(振り返り)	・教師の観察(活動への参加態度) ・児童の振り返り(話し合い・アンケート等)			
配慮・支援	障害・特性・性差等 トイレ対応・休憩時間・危険回避・個別支援等				
危機管理 安全対策	予防的措置 ・実地確認事項チェック表・事前健康チェック・緊急連絡先確認				
	当日の配慮事項 事後の確認	・当日健康チェック・救護体制(役割確認)・非常事態対応 ・体調・怪我・事故等の確認共有・反省を次回に引き継ぐ			

●学級経営に生かす学校行事【担任の語りかけの例】

<p>○5つの種類の学校行事を児童が協力して行い、それぞれの行事のつながりを意識しながら児童の力を伸ばすこと ○学校行事を行う意義を児童が理解し、各自が目標を持って取り組むことができるようにすること</p>					
1 儀式的 行事	ねらい	・清新な気持ちを味わい生活に折り返す。			
	具体例	○入学式 ○卒業式 ○始業式 ○修了式 ○離任式 ○周年行事 ○朝会 等			
	担任の語りかけ(例)	<table border="1"> <tr> <td>始業式</td> <td>「始業式は一つの区切りであり節目です。支えてくれる人たちに感謝して、これからどんな自分を目指すのかを見つめなおす行事です。」</td> </tr> <tr> <td>卒業式</td> <td>「卒業式は6年間の最後の授業です。中学校生活に向けて新たな希望を持つ大切な行事です。」</td> </tr> </table>	始業式	「始業式は一つの区切りであり節目です。支えてくれる人たちに感謝して、これからどんな自分を目指すのかを見つめなおす行事です。」	卒業式
始業式	「始業式は一つの区切りであり節目です。支えてくれる人たちに感謝して、これからどんな自分を目指すのかを見つめなおす行事です。」				
卒業式	「卒業式は6年間の最後の授業です。中学校生活に向けて新たな希望を持つ大切な行事です。」				
2 文化的 行事	ねらい	・文化や芸術に親しみ、豊かに生活する。			
	具体例	○音楽会 ○学習発表会 ○展覧会 ○学芸会 ○芸術鑑賞会 等			
	担任の語りかけ(例)	<table border="1"> <tr> <td>学芸会</td> <td>「学芸会は、これまで学習したことを生かして、自分らしく表現したり、活躍したり、友達の良いさを見つけたりする行事です。」</td> </tr> <tr> <td>学習発表会</td> <td>「学習発表会は、日頃の学習成果を発表して、美しいものやよりよいものを創り出す学校行事です。」</td> </tr> </table>	学芸会	「学芸会は、これまで学習したことを生かして、自分らしく表現したり、活躍したり、友達の良いさを見つけたりする行事です。」	学習発表会
学芸会	「学芸会は、これまで学習したことを生かして、自分らしく表現したり、活躍したり、友達の良いさを見つけたりする行事です。」				
学習発表会	「学習発表会は、日頃の学習成果を発表して、美しいものやよりよいものを創り出す学校行事です。」				
3 健康安全・ 体育的 行事	ねらい	・健康な心と体、安全な生活をつくる。			
	具体例	○運動会 ○なわとび大会 ○健康診断 ○避難訓練 ○防災訓練 等			
	担任の語りかけ(例)	<table border="1"> <tr> <td>運動会</td> <td>「運動会は、自分の目標に向かって精一杯挑戦します。一人一人が責任を果たして協力し、団結してよりよい学校をつくっていく学校行事です。」</td> </tr> <tr> <td>防災訓練</td> <td>「防災訓練や交通安全教室は、事故や災害から身を守り、安全に行動する方法、態度を身に付ける学校行事です。」</td> </tr> </table>	運動会	「運動会は、自分の目標に向かって精一杯挑戦します。一人一人が責任を果たして協力し、団結してよりよい学校をつくっていく学校行事です。」	防災訓練
運動会	「運動会は、自分の目標に向かって精一杯挑戦します。一人一人が責任を果たして協力し、団結してよりよい学校をつくっていく学校行事です。」				
防災訓練	「防災訓練や交通安全教室は、事故や災害から身を守り、安全に行動する方法、態度を身に付ける学校行事です。」				
4 遠足・ 集団 宿泊的 行事	ねらい	・互いを思いやり、協力することの大切さを知る。			
	具体例	○遠足 ○自然教室 ○宿泊学習 ○修学旅行 等			
	担任の語りかけ(例)	<table border="1"> <tr> <td>遠足</td> <td>「遠足は、豊かな自然や文化に触れる体験や、校外における集団活動を通してふれあいを深める学校行事です。」</td> </tr> <tr> <td>自然教室</td> <td>「自然教室は、自然に触れて理解を深め、自然を守り、共に生きていく大切さを学ぶ学校行事です。」</td> </tr> </table>	遠足	「遠足は、豊かな自然や文化に触れる体験や、校外における集団活動を通してふれあいを深める学校行事です。」	自然教室
遠足	「遠足は、豊かな自然や文化に触れる体験や、校外における集団活動を通してふれあいを深める学校行事です。」				
自然教室	「自然教室は、自然に触れて理解を深め、自然を守り、共に生きていく大切さを学ぶ学校行事です。」				
5 勤労生 産・ 奉仕的 行事	ねらい	・人の役に立つ喜びを知る。			
	具体例	○大掃除 ○飼育栽培活動 ○地域清掃活動 ○福祉施設との交流 等			
	担任の語りかけ(例)	<table border="1"> <tr> <td>大掃除</td> <td>「大掃除は、お世話になった教室に感謝の気持ちをもって、自分たちの学校をきれいにし、みんなで気持ちのよい学校をつくっていく学校行事です。」</td> </tr> <tr> <td>地域清掃活動</td> <td>「地域清掃活動は、地域の方と協力しながら、よりよいまちをつくっていく学校行事です。」</td> </tr> </table>	大掃除	「大掃除は、お世話になった教室に感謝の気持ちをもって、自分たちの学校をきれいにし、みんなで気持ちのよい学校をつくっていく学校行事です。」	地域清掃活動
大掃除	「大掃除は、お世話になった教室に感謝の気持ちをもって、自分たちの学校をきれいにし、みんなで気持ちのよい学校をつくっていく学校行事です。」				
地域清掃活動	「地域清掃活動は、地域の方と協力しながら、よりよいまちをつくっていく学校行事です。」				
<p>学校行事は ■児童同士のつながりが深まり、子供にも居場所をつくる。 ■主体的な活動の経験は、学級づくりや教科等の学習に役立つ。 ■保護者や地域への活動の発信は、信頼や協力を得ることにつながる。</p>					

VII まとめと結論

学校に行きたいと子供たちが感じるの、自分の存在が認められ、豊かな人間関係が構築されている学級経営によるところが大きい。この点について、特別活動の役割の大切さを述べてきたところである。中でも学校行事は、学級経営において必要な信頼関係やよりよい人間関係を構築する上で、重要な役割を担っている。そして、このときに大切なことは、子供たちだけの人間関係さえ良ければ良いのではなく、教師との人間関係も良くなくてはならない。子供たちの活動を横で見ている教師でなく、共に活動していく教師でなくてはならない。

文部科学省の令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査による暴力行為発生件数の推移をみると、小学校では平成25年度（令和2年を除く）から令和3年まで、中学校では令和3年度に増加に転じている。かつての荒れる学校を経験した私から見ると、暴力行為の増加は荒れる学校の指標とみることができる。小学校はすでに、中学校も徐々に荒れる学校、いわゆる「学級崩壊」に進むのではないかと気になってならない。これを止める方法の一つとして、教師と児童生徒、児童生徒間の信頼関係を大切にした学級経営が大切なものであると感じる。

さらに今日、論は外れるが学級経営を円滑に運営していくためには、インクルーシブ教育の知見が必要である。発達障害、特別支援学級との関係、通級等、個別最適な授業を行うための、教師側の実践的指導力は多くの超えなければならない課題に満ちている。

これら多くの教育課題が取り巻く現在ではあるが、教育という営みの中で、教師と子供の関係を大切にしながら学校生活を送る「学級」という存在は、日々の教育活動の核となる場所である。情熱と実践的指導力をもった学級担任が学級経営に取り組むことで、子供たち一人一人、また学級集団が成長していく姿を見ることができるということは、教師という職業において、この上ない喜びである。予測困難な時代にあっても、子供たちの「笑顔」や「一生懸命な顔」のために、努力する学級担任であってほしいと願う。

〔引用文献・資料〕

- 文部科学省、「小学校学習指導要領」平成10年告示
文部科学省、「小学校学習指導要領」平成20年告示
文部科学省、「小学校学習指導要領」平成29年告示
文部科学省、「中学校学習指導要領」平成29年告示
文部科学省、「高等学校学習指導要領」平成21年告示
文部科学省、「高等学校学習指導要領」平成30年告示
文部科学省、「生徒指導提要」令和4年改定
文部科学省、「小学校学習指導要領解説特別活動編」平成29年版
協同出版、「教師論（改定版）」菊地龍三郎編著（金井正ら9名著作）令和5年
学校教育施行規則 別表第一
栃木県教育委員会、「学びに向かう集団づくり」リーフレット 平成21年
栃木県総合教育センター 「若手教員のための学級経営のイロハ」平成27年
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
「みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」令和5年
「学校文化を創る特別活動 中学校・高等学校編」令和5年

